

新年おめでとうございます。「ルビンの壺」という絵の話を聞いたことがありますか。この絵は、その絵のどのところに重きを置いて見るかで、ある人には「向き合う人と人の横顔」に見えたり、別の人には「壺やトロフィー」に見えたりするのです。このことについて言うなら、どちらに見えるのが正しいというのではないようです。人それぞれ、同じ絵でも見方が異なる。そして、同じ人でも、時期や状況などが異なれば、見方が変わり別の絵に見える。この絵のように、凡そ物事に対する見方や感じ方は、人それぞれということがあるということです。

様々なことについて、同じことが言えそうです。例えば、3年生は、共通テストまで今日を入れてあと12日あります。「まだ12日」と捉えるか、「あと12日しかない」と捉えるか、捉え方の違いで、この12日間を有効に使えるか否かが決まってしまう。「あと12日しかない」と捉えて焦って何も手がつかなくなるというのではなく、「まだ12日」と捉え、1日1日を大切に有効に使って当日を迎えましょう。ここからの期間も、十分に伸びていきます。先生方のアドバイスも受けて、健康にも留意しつつ、国公立の人も私立の人も、文系の人も理系の人もスポーツ系や芸術系の人も、最後まで計画的な学習を粘り強く続けてください。

ところで、終業式でも少し話しましたが、今、文部科学省は、「高等学校においては、文理両方を学び、個々の資質・能力を伸ばすとともに」「地域の良さを学び、コミュニティを支える人材の育成を進めていく」と言っています。そして、「大学においては、文理両方を学ぶ教育プログラムの充実を図り、AI・データ科学分野等の高度専門人材育成のための施策を加速させる」と言っています。先が見えにくい社会で、人生100年時代を見据え、「基盤的な学力の確実な定着」「他者と協働しつつ、自ら考え抜く自立した学びを実現」することが必要とされているのです。これは、不透明な時代には、様々な専門を身につけた人たちが、知恵や思考方法を出し合って協力して仕事をしていくことが必要であり、解のない問にこたえるには他の専門家の言っていることも理解できる力が必要だからです。

そのために、進学指導推進校の生徒として、どの科目も偏りなくしっかりと学び、将来、社会で貢献してほしいのです。終業式の時にも言いましたが、高校で学んでいることは、基礎・基本、大切なことです。大切なことを偏りなく、どの科目もしっかり授業に臨み学んでいきましょう。また、「地域の良さを学び、コミュニティを支える」ためにも、総合的な探究の時間で取り組んだことや、交通安全週間で本校近くの小学校の交通安全のために行った旗振りの活動などは、地域や社会から感謝される行動です。校内に、小学校児童からのお礼のメッセージの寄せ書きと感謝状が掲示してあります。

さて、この冬休み中にも、新たな感染者数が東京都だけでも1000人を超える日がありました。感染防止対策は、終業式の日に話したとおりです。自分のため、友達のため、周囲のため、家族のために、感染防止対策に取り組んでいきましょう。コロナのことについては、先が見えないところもあります。しかし、ウィズコロナで感染防止対策をしっかりとつつ、これからも続くであろう様々な変化に対応して、前向きに捉えて取り組んでいければと思います。

2年生は、2月上旬に修学旅行を控えています。先生たちは、東京都のガイドラインや旅行業界のガイドラインを踏まえ、様々な感染防止対策を立てています。実施2週間前からは同居のご家族の方の健康観察も行います。3年生は共通テストに向けた健康観察も、すでに始まっています。勿論、毎日、全員が、オンラインでの健康観察表データ送信を続けてください。

この3学期、実りある学期にしたいと思います。